



## LIVE WEBINER 「Greater social good を目指して」

### 第3回目 「ボランティアの動機付け」 議事録

日時：令和3年6月8日（火）18:30～19:30

主催：同志社大学ソーシャルマーケティングセンター

参加者：遅 力榕 ・センター研究員（講演）  
岡田 彩 ・センター研究員（司会・パネリスト）  
大久保 雅史 ・センター研究員（パネリスト）

目的：「social good とは何か」について多角的視座で議論し、  
ソーシャルマーケティング研究センターとして一つの指針を示すこと

本日の agenda：

- ①日本のボランティア活動の現状と課題
- ②中国のボランティア活動の現状と課題
- ③動機づけ理論—自己決定理論
- ④ボランティア活動などの向社会的行動の推進に資する提言
- ⑤パネルディスカッション

はじめに、岡田より今回の講演の位置づけについて「前回まではキックオフの意味合いも込めてソーシャルマーケティング（以下:SM）というど真ん中のアプローチをしてきた。今回以降はもう少しそれぞれの専門性に引き付けた形で、SM とどのかかわるのかということも検討する。social good を目指して、どのような仕組みがあるのか、理論的観点がありうるのかということについて議論していく」と説明があった。その後、センター研究者の遅力榕より「ボランティアの動機付け」についてご講演いただいた。これらをベースに、センター研究者の岡田彩、大久保雅史とともに議論した。最後に、「social good とは何か」を各々の専門から述べた。

①「ボランティア」という言葉は、ラテン語の Volo、自らの意思をもって行動する、喜んで何かをするという意味を持つ動詞から派生したものである。輸入概念であるため定義は多種多様である。そのため、ボランティア活動の性格・原則により説明されることが多い。それらは「自発性・主体性」、「社会性・連帯性」、「無償性・無給性」、「創造性・開拓性・先駆性」などである。日本のボランティアに対する意識は、内閣府（2018）「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」によると以下になる。「社会をよりよくするため、私は社会における問題の解決に寄与したい」という質問では「そう思う」人々の割合が諸外国の中で最も低い。また、「ボランティアに対する興味」への質問は「関心がある」という回答



が最も低い。さらに、「関心がない」と回答した人々の割合は最も高い。日本では、ボランティア人材の高齢化による担い手の不足、ボランティア活動への参加希望数と実際の参加経験数とのギャップ、政治・経済・社会への若者の不参加または無関心などの課題があり、ボランティア活動の終焉（仁平 2011）、ボランティア・市民活動の危機（村上 2015）が懸念されている。

②中国でボランティアは「志願者」と呼ばれている。中国のボランティアは2008年北京五輪と四川大地震を「ボランティア元年」とし、活発となってきた。ボランティアを支える価値や理念・文化には昔からの互助・友愛・善の思想理念がある。また、活動組織の起源としては二大組織形態、I. 社区ボランティア活動組織（地域に根差した活動）、II. 青年ボランティア活動組織（国際的な大型プロジェクトへの協力、貧困地区への支援、環境保全活動）が存在する。その組織の活動領域として、最も多いのは高齢者の助け合い活動で82.19%となる。その他具体的には、視覚障害者に映画を読むこと、人間とのかかわりの中で傷ついた鳥類を自然に戻す手伝いをする、美容師が近くの公園で無料にて髪をカットすることなどがおこなわれている。しかし、動員型参加、行政の後押しなどでボランティアの自発性が問われることが指摘される。

③、④動機づけとは、行動や心の活動を、開始し、方向づけ、持続し、調整する、心理行動的なプロセスである（上淵 2009）。動機づけには、内発的動機づけと外発的動機づけがある。たとえば、前者は本を読むときそのこと自体を楽しむ。後者は試験に合格するために読む、手段としてのものとなる。自己決定理論（Self-determination theory）とは、ロチェスター大学の Deci, E. L. と Ryan, R. M. によって提唱された人間の行動やパーソナリティの発達に関する動機づけ理論である。ボランティア活動の原則として、自発性の重要性を疑う余地はない。しかし、外発的動機づけと内発的動機づけは対極的な概念ではない。また、外発的動機づけが徐々に内面に転化し、変容させることができると指摘されている（Deci & Ryan 1985）。さらに、この3つの心理欲求—自律性、有能感、関係性—は、自己決定理論の基礎的欲求として説明するものである。この理論を通したまとめとして、外発的動機づけは必ずしも「悪」ではない。内発的動機づけを喚起するため、外部からの働きかけ、社会的要因に注目する必要がある。また、外発的に動機づけられた活動の価値を自己のものへ取り入れていく「内在化」の過程に注目する。動機づけの内在化を促進させ自律性の高い動機づけを形成させるためには、自律性と有能感、そして関係性への欲求を満たすことが重要である。位置づけ、意味づけを通して行動変容を促すことができる。まずは対象者を「主体」として位置づけること、人間を想い、感じ、考える主体。社会環境と相互作用する主体と捉えることが重要である。そして、その活動の価値を行動に「意味づけ」すること。その活動価値をどの程度自分のものにしていくかがその行動に影響を与えている。最後に「ボランティア活動などの向社会行動に秘する善は、人類最後の誇りと勝算である」と述べた。



⑤多くの質問やコメントがあったため、今回は一部を記載する。はじめに、大久保はボランティア活動のはじめは動機づけにこだわらなくて、内在化してくることで自己肯定感へつながればよいと聞いて賛同できた。偽善者だとしても行動で現れるところで人の役に立っていたら良いと思うと述べた。これに対して遅は、学生にボランティアの印象を聞いたときに偽善と答える人がいる。しかし、偽善にも「善」がついている。本当の善か仮の善かよりも社会のために良い行動を起こすことが大切である。ボランティアを通して、最後に自発性の形成、ボランティア精神の醸成につながるような行動変容があれば良いと思うと述べた。これを受け大久保は、何かすることが偽善になるのではないかと思っている人はそうでもいから行動してみる。行動させるような仕組みがあればそのような方向へいくのではないかとした。続いて岡田からはソーシャルマーケティング（SM）とボランティアの共通点と相違点について述べた。共通としては、やり過ぎそうと思えばやり過ぎせることを行動に移してもらえるように、変わっていくように働きかける点である。SMが目指すところ、その実践と似ている。相違としては、行動を示す相手が見えやすい点である。良かれと思ってしたことが相手にとって実はマイナスになったり、批判されたりするのはそれゆえだと思つとした。次に、視聴者からのコメントに回答した。センター研究者中山から、『日本の古くからの考え方に「陰徳を積む」という美德がある。英語だと to do good by stealth（隠れていいことをする）。ボランティアは「他から見える」ことがある意味では大切だが、「陰徳」のように「他から見えない」ことに価値を考える方は、「ボランティア」的にはどうなるのか』という質問あった。これに対して遅は、「縁の下の力持ち」のようにボランティアにも他の人が見えない部分で支えているところがあるのではないか。東洋の文化の中には共通のところがあると思うと述べた。これを受け中山は、いいことをやるときはあまり目立たないようにやろうと思ってしまう。もう一步踏み出した方がいいのかなと思いつながらも、何か少し hesitate してしまうとした。続いて、視聴者からの『人助けは好きですししたいと思うのですが、「ボランティア」だと言われるとやる気がなくなってしまう。このような気持ちについて先生はどのように考えられますか？』という質問に対して講演者やパネリストは、ボランティアのイメージは人それぞれである。隠匿は積むけれど明徳は積まない。あからさまに人助けをするのは恥ずかしいというイメージなのかもしれないと回答した。また、センター研究者渡辺からの『自粛ポリスはボランティア活動となるのでしょうか。実行している本人は満足し、社会に良いことをしているとおもっていると思いますが、少し違和感を持ちます。』というコメントに対して遅は、その人にとっては自発性に基ついて、そして社会のために動いているからその人自身にとってはボランティアをしている。そのため、社会的にどのようにその行動を判断するのかは難しいとした。さらに、センター研究員藤平からは、『災害時によく聞く被災地の迷惑になってしまうような「モンスターボランティア」の問題についてはどう思われますか？（個人的には偽善や外的なモチベーションが大きな役割を果たしているように思いますが...）』という質問があった。これに対して遅は、質について



は研修とか災害のボランティアセンターとかが今までの経験についての情報共有ができればそこら辺のコントロールも可能となるのではないかと述べた。

最後に、「social good とは何であろうか」という問いかけに対し各々コメントした。岡田は、good な顔をしていないこともある。結果的に social good であったと見抜くのは難しいかもしれないと述べた。大久保は、動機づけというよりも SDGs が旗に掲げているような社会にとって良い活動みたいな、外側から見た方がいいのではないかと思うとした。遅は、社会的利益と翻訳されているものがある。その利益とは benefit ではないかと思う。つまり、誰かにとって得であり、誰かにとって損であるというイメージをもつ。common good を共通善と訳すように、social good を社会善としてはどうかと述べた。